

〔笈埃隨筆八〕嚴島

此島は我國三景の中にして、無雙の神島也。○中 嚴島とは市杵島姫命を祭る名也、宮島とは此神の宮地なる故也。○中 御社の後は山にして前は海、左は野、右は松原。○下

○按ズルニ、嚴島ノ事ハ、尙ホ島嶼ノ條ニ在リ、參照スベシ。

雜載

〔延喜式二十八〕諸國健兒○中 安藝國冊人○略

諸國器仗○中 安藝國冊人○略
兵部略甲三領、橫刀十口、弓廿具、

〔日本書紀三神武〕十有二月○甲寅歲壬午至安藝國居于埃宮

〔日本書紀十一仁德〕三十八年七月、天皇與皇后居高臺而避暑時。○中 因謂皇后曰、朕比有懷抱、聞鹿聲而慰之、今推佐伯部獲鹿之日夜及山野、即當鳴鹿、其人雖不知朕之愛以適逢獮獲、猶不得已而有恨故佐伯部不欲近於皇居、乃令有司移鄉于安藝渟田、此今渟田佐伯部之祖也。

周防國

周防國ハ、スハウノクニト云フ、山陽道ニ在リ、東ハ安藝及ビ海ニ接シ、西ハ長門、北ハ長門、石見ノ兩國ニ接シ、南ハ海ニ至ル、東西凡ソ二十里餘、南北凡ソ十二里餘、此國ハ古ヘ國府ヲ佐波郡ニ置キ、大島、玖珂、熊毛、都濃、佐波、吉敷ノ六郡ヲ管シ、延喜ノ制、上國ニ列ス、現今山口縣ヲシテ之ヲ治セシム、

名稱

〔倭名類聚抄五〕周防○須波

〔蓮步色葉集須周防

〔元亨釋書十一〕釋基燈、周州大島郡人。○下